

副産物情勢

12月5日

更新

JA全農ミートフーズ株式会社

項目		内 容	備 考																									
1. 内臓	①国産牛	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年10月の成牛と畜頭数は、93.7千頭(前年比103.5%)となった。 内訳を見ると、和牛43.1千頭(前年比111.6%)、交雑牛19.6千頭(同 97.5%)、乳牛去勢13.5千頭(同 94.3%)であった。 ○ 令和2年11月の成牛と畜頭数は、速報値(11/30まで集計)で97.5千頭(前年比93.5%)と前年を下回った。 ○ (独)農畜産業振興機構が11月26日に公表した牛肉の需給予測によると、12月の生産量は乳用種で前年同月並みとなるものの、和牛および交雑種で増加が見込まれることから、前年同月をかなりの程度上回ると予測している。 3ヶ月平均(10~12月)について、出荷頭数は前年同期並み、生産量は前年同期をわずかに上回ると予測している。 ○ 需要動向は、外食産業(焼肉・鍋)が活気づいたことで全体的に荷動きは良いが、レバーとギアラは引き合いが少ない。 流通相場は和牛・交雑牛原料は回復の兆はあるものの、まだまだ厳しい価格帯で流通していると聞く。 ○ ホルス牛原料の荷動きは依然として厳しいため、外食業態の引き合いが和牛・交雑牛原料で間に合っていることが予想される。 	1. 東京市場内臓価格 単位:円/枝肉kg	<table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛内臓</th> <th>豚内臓</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年6月9日</td> <td>30/枝kg</td> <td>9/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成26年11月10日</td> <td>35/枝kg</td> <td>9/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成28年6月6日</td> <td>40/枝kg</td> <td>9/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成31年4月1日</td> <td>45/枝kg</td> <td>9/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年4月20日</td> <td>25/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月1日</td> <td>35/枝kg</td> <td>7/枝kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>*乳牛も同様35円/kg *豚正貫物</p>	価格改定年月日	牛内臓	豚内臓	平成26年6月9日	30/枝kg	9/枝kg	平成26年11月10日	35/枝kg	9/枝kg	平成28年6月6日	40/枝kg	9/枝kg	平成31年4月1日	45/枝kg	9/枝kg	令和2年4月20日	25/枝kg	5/枝kg	令和2年7月1日	35/枝kg	7/枝kg			
価格改定年月日	牛内臓	豚内臓																										
平成26年6月9日	30/枝kg	9/枝kg																										
平成26年11月10日	35/枝kg	9/枝kg																										
平成28年6月6日	40/枝kg	9/枝kg																										
平成31年4月1日	45/枝kg	9/枝kg																										
令和2年4月20日	25/枝kg	5/枝kg																										
令和2年7月1日	35/枝kg	7/枝kg																										
	②国産豚	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年10月度全国の肉豚出荷頭数は1,481千頭(農林水産統計11/30公表 前年同月比101.1%、前月比109.9%)となった。 10月の全国地域別出荷頭数を前年同月比で見ると、北海道102.1%、東北99.5%、関東101.2%、北陸甲信越96.1%、東海106.0%、近畿91.9%、中四国100.7%、九州・沖縄101.7%となった。 ○ 令和2年11月の全国と畜頭数は、速報値で1,361千頭(11/30まで集計)、前年同月比96.0%となっている。稼働日数では昨年より1日少ない19日となり、1日当たりの平均と畜頭数は速報値段階で71,632頭となっている。(前年は70,911頭/日) ○ 農水省食肉鶏卵課令和2年11月18日付肉豚生産出荷予測によると、今後の出荷予測頭数は令和2年12月1,464千頭(前年同月比99%)、1月1,393千頭(同96%)、2月1,315千頭(同99%)、3月1,407千頭(同98%)となっている。 ○ 需要動向は、タン・ハツ・小腸・ガツ・豚耳が堅調に推移している。特に小腸は市中仓库が薄いことからメーカーが躍起になって集荷していると聞く。 地域差はあるが、レバーと直腸は荷余り感が強く、外食業態(ホルモン焼き)の回復が未だに厳しいことが想定される。 ○ 外食から内食や中食へ需要シフトしている傾向があり、流通相場の回復は鈍いものの荷動きはコロナ以前に戻りつつある。 	2. 大阪市場内臓価格 単位:円/枝肉kg	<table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛内臓</th> <th>豚内臓</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成24年7月13日</td> <td>30/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成26年11月10日</td> <td>35/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成28年5月30日</td> <td>40/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成31年4月1日</td> <td>45/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年4月20日</td> <td>25/枝kg</td> <td>3/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月1日</td> <td>35/枝kg</td> <td>4/枝kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>*H23.4.1から枝重500kg以上が510kg未満に改定</p>	価格改定年月日	牛内臓	豚内臓	平成24年7月13日	30/枝kg	5/枝kg	平成26年11月10日	35/枝kg	5/枝kg	平成28年5月30日	40/枝kg	5/枝kg	平成31年4月1日	45/枝kg	5/枝kg	令和2年4月20日	25/枝kg	3/枝kg	令和2年7月1日	35/枝kg	4/枝kg			
価格改定年月日	牛内臓	豚内臓																										
平成24年7月13日	30/枝kg	5/枝kg																										
平成26年11月10日	35/枝kg	5/枝kg																										
平成28年5月30日	40/枝kg	5/枝kg																										
平成31年4月1日	45/枝kg	5/枝kg																										
令和2年4月20日	25/枝kg	3/枝kg																										
令和2年7月1日	35/枝kg	4/枝kg																										
	③輸入牛	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年10月の輸入通関実績によると牛肉輸入量は全体で50.9千t(前年比92.0%、前月比115.1%)となった。 内訳は、チルドが21.3千t(前年比83.8%、前月比116.7%)、フローズンが29.5千t(同 99.0% 同 114.0%)となった。 チルド輸入量は豪州産の干ばつ後の牛群再構築による生産量減少や入船遅れの影響、前年の通関が5週間分と多かったこと等により前年を大きく下回り、フローズンは豪州産が減少したものの、米国が増加したことにより前年をわずかに下回る結果となった。 ○ (独)農畜産業振興機構が11月26日に公表した牛肉の需給予測によると、チルド輸入量は豪州産の干ばつ後の牛群再構築による生産量減少に伴う現地価格の高騰や新型コロナウイルス感染症の影響に伴う北米工場の作業効率の低下、北米からの入船遅れが発生していること等から、11月は前年同月をやや下回り、12月もわずかに前年同月を下回ると予測している。フローズン輸入量について、11月は前年輸入量が倉庫の庫腹量の逼迫等により少なかったことから前年並み、12月は前年の輸入量が外食等の好調な需要を背景に多かったことから、前年同月を大幅に下回ると予測している。 ○ 令和2年10月の冷凍輸入牛レバーは80.0t(前年比80.7%・前月比163.3%)で、国別では米国55.0t、豪州12.5t、墨国10.4t、新西蘭2tであった。 冷凍輸入牛腸は1,063.7t(前年比75.1%・前月比110.2%)で、国別では米国763t、豪州70t、墨国117t、加奈陀113tとなった。 	3. 東京市場原皮価格 *交雑牛含む 単位:円/枚	<table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛原皮(和牛)</th> <th>豚原皮</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年11月1日</td> <td>1,000/枚</td> <td>100/枚</td> </tr> <tr> <td>平成31年1月5日</td> <td>1,000/枚</td> <td>30/枚</td> </tr> <tr> <td>令和元年7月22日</td> <td>700/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年3月16日</td> <td>500/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年6月15日</td> <td>100/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月20日</td> <td>100/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年9月28日</td> <td>10/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> </tbody> </table>	価格改定年月日	牛原皮(和牛)	豚原皮	平成30年11月1日	1,000/枚	100/枚	平成31年1月5日	1,000/枚	30/枚	令和元年7月22日	700/枚	10/枚	令和2年3月16日	500/枚	10/枚	令和2年6月15日	100/枚	10/枚	令和2年7月20日	100/枚	2/枚	令和2年9月28日	10/枚	2/枚
価格改定年月日	牛原皮(和牛)	豚原皮																										
平成30年11月1日	1,000/枚	100/枚																										
平成31年1月5日	1,000/枚	30/枚																										
令和元年7月22日	700/枚	10/枚																										
令和2年3月16日	500/枚	10/枚																										
令和2年6月15日	100/枚	10/枚																										
令和2年7月20日	100/枚	2/枚																										
令和2年9月28日	10/枚	2/枚																										
2. 原皮	①牛原皮	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年10月の輸出実績は、52,365枚(前年比157.2%、前月比124.5%)で、前年・前月を大きく上回った。輸出平均価格は1,040円/枚(前年比-770円、前月比+58円)で、2ヶ月連続で前月比がプラスに転じた。国別実績は、タイ28,300枚(前年比164.2%)、韓国2,975枚(同46.0%)、ベトナム16,310枚(同198.9%)、香港1,800枚(同実績なし)、カンボジア2,980枚(同実績なし)で、タイが過半数を占めた。一方、ウェットブルーの輸入は、13.8千枚(前年比67.9%、前月比89.0%)、牛大判皮は17.4千枚(前年比40.3%、前月比174.4%)となった。 ○ 世界的な新型コロナウイルス第2波の影響でメーカー需要は消極的かつ先行きが見えない状況のため厳しい展開が予想される。 ○ 国内需要が若干回復したという声もあったが、早々に一般感は出ているようで期待できるような荷動きではない。 ○ 輸出価格は当分の間回復が期待できそうな情勢ではないため、原皮業者の事業縮小(=廃業)が懸念される。 	4. 大阪市場原皮価格 *交雑牛含む 単位:円/枚	<table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛原皮(和ヌキ)</th> <th>豚原皮</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成31年1月28日</td> <td>1,300/枚</td> <td>30/枚</td> </tr> <tr> <td>令和元年7月16日</td> <td>1,000/枚</td> <td>30/枚</td> </tr> <tr> <td>令和元年8月15日</td> <td>1,000/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年3月16日</td> <td>800/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年6月22日</td> <td>300/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月27日</td> <td>300/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年9月28日</td> <td>10/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> </tbody> </table>	価格改定年月日	牛原皮(和ヌキ)	豚原皮	平成31年1月28日	1,300/枚	30/枚	令和元年7月16日	1,000/枚	30/枚	令和元年8月15日	1,000/枚	10/枚	令和2年3月16日	800/枚	10/枚	令和2年6月22日	300/枚	10/枚	令和2年7月27日	300/枚	2/枚	令和2年9月28日	10/枚	2/枚
価格改定年月日	牛原皮(和ヌキ)	豚原皮																										
平成31年1月28日	1,300/枚	30/枚																										
令和元年7月16日	1,000/枚	30/枚																										
令和元年8月15日	1,000/枚	10/枚																										
令和2年3月16日	800/枚	10/枚																										
令和2年6月22日	300/枚	10/枚																										
令和2年7月27日	300/枚	2/枚																										
令和2年9月28日	10/枚	2/枚																										
	②豚原皮	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年10月の輸出実績は、1,118,492枚(前年比107.6%、前月比118.3%)で、前年・前月を上回った。輸出平均価格は358円/枚(前年比+51円、前月比+49円)となった。国別実績は、タイ806.3千枚(前年比97.2%)、韓国24.7千枚(同82.7%)、カンボジア99.2千枚(同154.3%)、ベトナム146.4千枚(同135.3%)、香港41.8千枚(同実績なし)、フィリピン・台湾・ミャンマーは実績なし。 ○ コロナ以前の輸出価格に戻ってきており、来年の旧正月に向けて更なる値上がりが期待される。しかし、需要の伸び悩みも見受けられることから楽観視はできない。 ○ 製品メーカーは安価な牛原皮を豚原皮の代替えで使用することもあるため、数年前のように旺盛な荷動きはないと思われる。 	5. 油脂価格(食用向け) 単位:円/kg	<table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛脂</th> <th>豚脂</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成31年3月11日</td> <td>85</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>令和2年2月1日</td> <td>90</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>令和2年8月1日</td> <td>95</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>令和2年9月1日</td> <td>95</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>令和2年11月1日</td> <td>95</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	価格改定年月日	牛脂	豚脂	平成31年3月11日	85	95	令和2年2月1日	90	95	令和2年8月1日	95	95	令和2年9月1日	95	85	令和2年11月1日	95	80						
価格改定年月日	牛脂	豚脂																										
平成31年3月11日	85	95																										
令和2年2月1日	90	95																										
令和2年8月1日	95	95																										
令和2年9月1日	95	85																										
令和2年11月1日	95	80																										
3. レンダリング	①油脂等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 11月渡しの国内産食用加工油脂向け豚脂は80円/kg(前月-5円/kg)、牛脂は95円/kg(据え置き)となった。 豚脂の短期間の価格引き下げは異例の展開であり、牛脂と豚脂の価格差が15円以上も開いたのは1997年10月以来である。 ○ 牛脂は依然として堅調推移しているが、豚脂は外食産業(ラーメン店等)の低迷で飼料落ちになる場合も想定される。 ○ 10月マレーシア産バーム油相場は、105円(前月+9円、前年+20円)であり、ラニーニャ現象の多雨による供給不安、堅調な輸出需要、米大豆高が相場を支援している。 9月生産量は前月比0.3%増加し、月末在庫は1.2%増加しているが、生産量の伸びは鈍化している。 ○ 10月の関東飼料用油脂は74円/kgと前月・前年とも同様であった。工業用油脂は45円/kgと前月・前年とも同様であった。 ○ 10月のUCオイル(ローリー)飼料用の関東標準価格は、前月・前年と同様の63円~66円/kg辺り。 																										